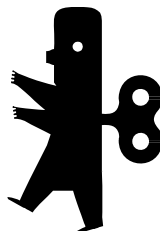


いつもありがとうございます。きしゅう会計の名倉です。すみません。事務所通信の発送遅くなり、11月も半ばになってしまいました。段々遅くなる執筆と発送。今一度、ネジを巻きなおさないといけません。それでも振り返ればVol.23。三日坊主常習犯



の僕にしては結構がんばってますp(^.^)q

三寒四温のこの時期、寒い冬の到来を肌で感じます。皆様は「冬」は好きでしょうか？僕はどちらかと言えば「冬派」だったのですが、今年ダイエットの成果(効果?)のひとつなのか、なんとなく「夏派」(暑いのが平気)に変わったような気がします。「夏派」の人もいれば「冬派」の人もいますが、お気づきでしょうか？「冬」があるから

人は成長していることを。先月所属しております優和会計グループの海外視察でタイ(バンコク)にいったのですが、その際に広島県の中小企業でタイに現地法人を出されている社長のお話を聞く機会がありました、その社長曰く「現地の人、男性は働きませんねえ。給料が出ると宵越しの金はもたねえって感じですすぐ使ってしまうし、反対に女性はよく働きます。でもこれはタイだけではなく、冬って季節のない暖かい国はみんなそんな感じみたいですよ」とのこと。



なんでもタイでは働かなくてお金がなくても、道端に野生のバナナがあるので、お腹が空けばそれを食べてればいいし、暖かいから外で寝ても風邪ひかないし、と勤労、勤勉を阻害してしまう環境が揃ってしまってるのが原因のよ

うです。そういえば、インソップの寓話「アリとキリギリス」でも食料の入らない冬が到来しないのであれば話が成り立ちませんもんね。日本にはありがたいことに「冬」があります。皆でいい感じに成長していきましょう(笑) 環境が人を育てるのです。



さて、今月号はいまちょっとはまっているドラマに光を当ててみたいと思います。

タイトルは「信長協奏曲から考えるタイムトラベルアラカルト」

です。僕はあまりテレビは見ないので、久しぶりに「信長協奏曲(のぶながこんちえると)」にはまっています。見ていない方も多いでしょうから、まずは簡単にドラマの解説です。

小栗旬扮する高校生のサブローは戦国時代にタイムトラベルしてしまいます。そこで最初にばったり出会ったのが織田信長。しかも年恰好も同じで顔もそっくりの設定。その織田信長にサブローは「拙者の代わりに織田信長として生きてくれ！」と頼まれ、訳の分からないままサブローは織田信長として生きていくこととなります。そこから始まる物語は、戦国武将としての常識もスキルも何も持ち合わせないサブローが現代の感覚を武器に周りから人望を集めて天下統一を果たすといったストーリー展開(?)まだ途中なのでどうなっていくのか分かりません。それとなんで「協奏曲」なんだろうと思っていましたが、4話目くらいで分かりました。最初に姿をくらませた、



本物の信長が家臣として戻ってくるのです。他の家臣たちにはばれないように顔を頭巾で覆って。しかも「明智光秀」と名乗って。そこから武士としての正式な作法が必要な場面ではサブローと本物の織田信長が入り替わって窮地を凌いだりなど、コンチェルトしていくのです。よくできた話で最近月曜日が楽しみになっています。



「戦国時代」「織田信長」「タイムスリップ」で思い出されるのが中学生の時に観た映画「戦国自衛隊」

これは、戦車やヘリコプター、機関銃等の近代兵器とともに数十名の自衛隊員が戦国時代にタイムスリップするお話。千葉真一扮する伊庭義明三等陸尉は、実際の歴史と違う違和感を持ちながらも、戦国武将の1人である長尾景虎(後の上杉謙信)と邂逅し否応なく合戦三昧の世の中へ組み込まれます。そして天下統一の直前、謀反を起され全員殺されていくのですが、伊庭は自決する直前、信長が存在していない歴史のタイムパラドクスを修正させるためにタイムスリップさせられ、信長を演じさせられたことに気づくといったものでした。「信長協奏曲」に戻ると、この話も、歴史のタイムパラドクスを修正させるためのタイムスリップだとすれば、武器といったハードでなくても、「みな平等」「誰もが安心」といった「現代の常識」といった形のない、考え方、ソフトだけでも歴史を修正することができるってことを表現したいのかなと思ってます。実際の歴史で天下統一を果たした信長。信頼を得て人をまとめ



る、天下を取るのには武力だけでできるわけではありません。皆が共感できる「ソフトなハート」もしっかり持っていたはずです。

(そういった感覚や気持ちが今でも世界を変えることができるということも忘れてはいけませんね)この映画とは反対に江戸時代の侍が現代にタイムスリップして、江戸時代の常識で今の時代の歪みに対して警鐘を鳴らすような作品もあります。それが



「ちょんまげぷりん」錦戸亮主演のこの映画。キャッチコピーが

「180年の時を越えて届いた約束。お侍が気づかせてくれた、大切なこと」なんです。ストーリーはタイムスリップしてきた侍がパテシエになるというハチャメチャな話なのですが、その中で、現代人が忘れかけている礼儀作法、男らしさを、侍のいた時代では当たり前なことを、当然のように周りに意見していきます。なんでもない場面でも



ですが、ファーストフードの店で、隣に座る親子の子供が羽目を外して他の人に迷惑をかけてさわいでいるシーンが印象的。はしゃいでいる子供を叱り、その母親にも意見し、周りの人にも何故注意しないのか問いただすのです。

「ややこしいことに巻き込まれたくない」といった気持ちが蔓延している現代。ダメなものはダメと叱らなければ、子供は礼儀作法を覚えま

せん。人としての成長も阻害されてしまいますよね。侍の感覚では理解できない世界になってしまってるんですね。今の時代は、..、^^;

どれくらいヒットしたのかは知らないのですが、とてもいい作品です。まだ観られていない方は是非ご覧ください。心が浄化されます。

さて、勢いもついてきましたので、今回のよもやまはタイムスリップもので最後までいってしまおうと思います(笑)。

江戸時代へのタイムスリップものとしては記憶に新しいのがNHKテレビドラマの「仁」。



大沢たかお扮する仁は文久2年(1862年)、幕末の江戸時代にタイムスリップをしてしまいます。そして過去の人間の

運命や歴史を変えていることを自覚しつつも、人々を救う為、現代から持ち込んだ知識と幕末の人々の協力により、近代医療を実現していくお話。梅毒治療のためにペニシリンまで造ってしまうんですね。ペニシリンはイギリス人に発見された抗生物質。そりゃ歴史も変わってしまいますよね。それより、一番印象に残ったシーンは、坂本竜馬と出会い、竜馬といっしょに遊郭に遊びに行く場面。現代人の男性にとってはたまらないロマンですよ(笑)

厳密にはタイムスリップものとは言えませんが、少し前にはまったのがテレビアニメの



「ヒカルの碁」。あらすじは、平安時代の天才棋士藤原佐為が成仏できずに長い時を経て、現代の小学生ヒカルの心の中に宿り、ヒカルの身体を借りて、現代の棋士と戦います。その中でヒカ

ルの中にも碁が強くなりたいたいという思いが強くなり、ライバルの塔矢アキラを追いかけるといもの。自分の中に成長過程にある自分と、完全無欠の強さを誇る天才棋士佐為の二人がいるという設定が面白い。この佐為がヒカルを指導して全く碁を知らなかったヒカルが強くなっていくのです。そして、最後に佐為は何故、歴史は自分とヒカル出会わせたのか、その意味を知るのです。



「人は必ず誰かのために存在する」
碁だけに留まらず、人生で大切なことを感じさせるとも素晴らしい作品でした。最後、佐為が消えるシーン。とても物悲しいのです。でも、深い深いところでのキャスティングボードは、人は皆持っていないから、..、今、この一瞬を悔いないように生きないといけません。

今度は真正正銘のタイムスリップもののアニメの秀作! 「時をかける少女」

筒井康隆原作の小説が原作ですが、過去に何回も映像化されたこの作品。最初の映画化は大

林宣彦監督、原田知世主演でした。その作品もいいのですが、2006年に同じタイトルで細田守監督により造られたアニメがとてもいい。ストーリー自体はかなり無理のあるおいおいっていった設定なのですが、中学生、高校生の頃の幼い恋心や異性に対する思いや行動を、上手に表現していて、切なくて物悲しくて、..、。主人公のまこと(女子高生です)はひょんなことから自由に行きたい時間にタイムスリップできるようになります。そして、その能力を無尽



蔵に無駄遣い。カラオケボックスにいて歌って終了時間になると、またその入ってきた時間にタイムスリップして、また歌いだし、それを何度も繰り返して喉がガラガラになるという始末。これは笑い話ですみませんが、まことはやってはいけないことをやっ



てしまいます。ボーイフレンドの千秋に告白されるシーン、まことの返事をまつ千秋。でも上手に気持ちを伝えられないまことは、それでもタイムワープで逃げます。それもまた何度も何度も。確かに親しい友人に告白された場合、Yesならいいですが、Noの場合は今までの関係よりも悪くなるかもしれません。それはさけない。そこでタイムワープ。でも、これはリスクを承知で勇気を振り絞って告



白している相手にはとても失礼な対応。話のなかでそのことに気づいたまことは涙を流しながら反省します。そう、真剣な相手をはぐらかしちゃいけないですよ。細田監督は「おおかみこどもの雨と雪」(これは、「うーん^^;」です)の作者です。あと「サマーウォーズ」も(これはいい!)

でも僕が細田監督で一番好きなのはこの「時をかける少女」です。お薦めです。

さて、最後にアニメではなく、また実写版の映画で割りと最近の映画です。

劇団一人監督。大泉洋主演の「晴天の霹靂」を紹介します。機内でたまたま期待せずに観てとてもよかった映画。内容は、バックトゥーザフューチャーに命の重さのエピソードを加えて、日本の大衆演芸で薄めて作ったって感じで、笑いあり涙ありの秀作です。



ストーリーは大泉洋扮するさえないマジシャン晴夫がタイムスリップして40年前へ。そこで同じされないマジシャンをしている若い頃の自分の父親出会い、漫談マジックのコンビを組むというお話。その出会いから晴

夫は自分の出生について父親から聞かされていた話と実際の話との違いを知ります。

親から与えられる命。生まれる子供に重たい現実を乗せちゃかわいそうと、父親が子供についたうそ。本当の重たい現実を知って生きるのと、つまらないうそを本当のことだと思い込んで生きるのでは前者の方がずっといいはず。

人生を左右するうそはもっと上手につかなぎゃいけませんね。役柄もマジシャンなんだから、..、でもその不器用さが泣けてきます(T_T)

さて、でも現実では今のところタイムトラベルなんてできないものです。そこで戻れないから今を受け入れてがんばろう! っていう歌で締めくくります。さだまさしの「主人公」です。

♪「或いは」「もしも」だなんて、
あなたは嫌ったけど、
時を遡るチケットがあればほしくなる時がある
あそこの分かれ道で選び直せるならって
もちろん、今の私を悲しむつもりはない
確かに自分で選んだ以上精一杯生きる
そうでなきゃ、あなたにとっても
とても恥ずかしいから♪

<名倉コメント>

時は遡れません。だから「確かに自分で選んで」「精一杯生きる」これしかできないですよ。